

《研修報告》議会活動集中講座 in 東京

テーマ：よくわかる市町村財政講座

会場：たましん RISURU ホール

主催：NPO 法人多摩住民自治研究所

[研修目的] 「習うより慣れろ」の演習を通して財政の基礎を学ぶ



平成 29 年 4 月 18 日(火)13:00～19:30

「よくわかる市町村財政分析」1 日目

講師：大和田一紘氏（NPO 法人多摩住民自治研究所理事）

●自治体情報の電子化と公開性（誰でもできる財政分析）

地方分権一括法の施行（2000 年 4 月）後、決算カードを中心に財政情報の開示を第 1 ステージとすると、昨今の「類似団体カード」「地方交付税算定台帳」「財政状況資料集」の開示を中心とした新たな第 2 ステージに入ったといえる。

どんな社会的統計にも代表的な 4 つの財政指標として「財政力指数」「経常収支比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」が定着しつつある。

住民がまちの財政を学ぶ準備は整いつつある。限られた財源をどのように市民的に使うのか、広報や議会報のスタイルを転換する時期に来ている。

知らせるだけの時代は終わった。住民と一緒に考えてもらうためにもお金のセンスを磨き、広報を読まれるものにしていくことが求められている。

●市町村のふとこ（歳入の仕組み）

市町村の歳入の仕組みを学び、「入るを量って出づるを制す」の意味を考える。

分権にふさわしい歳入の仕組みのあり方考える。

\*決算カードと財政分析シートでの演習

（決算額の推移・歳入決算額の校正額の推移・歳入の体系・形状一般財源等の推移）

●議会・市民から見た税金の使われ方（歳出の仕組み）

歳出の分析を通して首長の政治姿勢や政策を学び、新しい住民ニーズに見合った歳出のあり方、土木・投資型（ハコもの）行政から、安全・安心、環境、教育、福祉型への転換を考える。

\*決算カードと財政分析シートでの演習

（決算額の科目順位目的別歳出・目的別歳出の「充当一般財源等」の科目順位・性質別歳出の科目順位と推移）

●様々な「財政指標」の味方・読み方・使い方

市町村の財政分析には、様々な「財政指標」がもちいられる。自分の市の数字の読み方を学び、議会での生かし方考える。

\*決算カードと財政分析シートでの演習

（財政指標諸指数の推移／平成 13 年～平成 27 年）

平成 29 年 4 月 19 日(水)9:15～15:00

「よくわかる市町村財政分析」2 日目

講師:大和田一紘氏(NPO 法人多摩住民自治研究所理事)

### ●類似団体比較カードと財政状況資料集のイロハ

類似した条件にある自治体の財政を比較することで、自らの財政運営の特徴を捉えることができる。その第一歩が「類似団体比較カード」である。入手方法と使い方を知れば、自治体の財政運営の改善の手掛かりになる。

類似団体カードを応用し、まとめたものが財政状況資料集にある。

指標だけでなく、自分の市の財政状況に関する財政課のコメントも掲載されている。これをてがかりに財政運営を読み解く力を養う。

\*財政状況資料集の読み方と注意点

### ●地方交付税制度の基礎の基礎（臨時財政対策債）

地方交付税制度を難しくしているのは、普通交付税を基準財政需要額、基準財政収入額、標準財政規模、財政力指数と一体的にとらえることにある。臨時財政対策債は実質的な交付税であり、同時に地方債である意味を理解する。

#### [研修所見]

財政状況の情報が様々な形で開示されていることで、市民と一緒に財政を考える時期に来ていることがわかった。そのためにも議会報のあり方は問われてくる。

徹底した類似団体との比較分析から、なぜそうなっているのかに気づくことが重要であり、また、市の経年の推移を読み解くことで、市の財政運営の考え方や向かうべき方向性への手掛かりになることを学んだ。

